



クラーク外務大臣は、海部首相、土井社会党委員長とも会談した。

業界と積極的に対話することを通じて工業化や経済発展、あるいは統一を成し遂げたことを高く評価、「この地域には、他の経済地域が羨むほかないような、一定のナショナル・コンセンサスと質の高い国家的エネルギーが存在する」と述べた。

太平洋地域にはまだ経済調整機関がないことに関連して、クラーク大臣は、同地域の経済統合を進めるひとつの方法として、アジア太平洋経済閣僚会議（APEC）の拡大強化を支持した。

大臣はまた、APECの枠組の範囲内で次の措置をとることができると提案した。

●経済の構造調整と成長に関する特定問題を検討するために経済専門家からなる常任委員会の設立。

●一連の貿易問題ワークショップの設置。

●環境問題に関するリーダーシップの発揮。例えば、開発と資源保護の目的を両方も達成できるよう、先進国と発展途上国が行動面で協力する新しい基準を作るなど。

クラーク大臣は最後に、第二次大戦後の冷戦に端を発する東西二極世界がいまや分解し、その結果生まれた新しい世界が抱える問題を解決する過程で、太平洋地域が一

層の協力をする必要があると述べ、「太平洋コミュニティがもっと強くなり、もっと組織化されれば、こうした新しい世界を上手に運営していく上で役に立つはず」との確信をもっていることを表明した。

アルバータ州後援の恐竜博を訪問

滞在中、アルバータ州出身のクラーク外務大臣は、夫人と令嬢を伴い、千葉・幕張

メッセで開かれていた「日立ディノベンチャー'90大恐竜博」を訪れた。同恐竜博は、アルバータ州で発掘された恐竜の化石や恐竜時代の遺蹟を空輸して展示したもので、これまで日本で開催された中で最も規模が大きい。恐竜研究の世界的権威であるアルバータ州ドゥラムヘラーのティレル古生物学博物館が協力・後援し、学研やTBSが主催、日立が特別協賛して、実現した。クラーク大臣は、主催者側の案内で広い会場内を見て回った後、恐竜博が日加両国の相互理解を深める上で意義があった、と述べた。今回訪日の目的のひとつが、日本理解を深めることにもあったため、大臣は、恐竜博に隣接のアルバータ観光展で働くカナダの青年10数人と会い、一般の日本人がカナダにどんな印象をもっていると感じたかなどについて興味深く話を聞いた。



旧交？温めるサミット前夜の日加両首相

7月に開かれたヒューストン・サミットで、マルルーニー首相と海部首相は、個別会談を行ない親しく意見交換をしたが、サミット前夜のバーベキュー・パーティとロデオ大会でも、仲のいいところを見せた。

●健康と友情のフィット・トレック●

カナダとソ連が共同で体力づくり

左の写真でマルルーニー首相（右端）がモスクワの赤の広場で広げている幕は何か。カナダとソ連の市民が火星に向かってどの位の道のりを歩けるか、一緒にやってみよう……という、一風変わったスポーツ・イベントの開始を宣言しているのだ。

この共同イベントはフィット・トレックといい、毎冬行われる。フィット・トレックに参加する人は、毎日運動しなければならない。何の運動でもよい。20分間運動すると、1キロメートル歩いたことにする。

そして参加者全員の踏破距離をなるべく火星までの距離に近づけるのが目標だ。

1989年冬は、両国合わせて10都市の80万人が参加し、210億キロメートルを記録した。マルルーニー首相が（昨年末）モスクワで開会宣言した1990年のフィット・トレックには、22都市、1,500万を超えるカナダとソ連の人々が参加した。両国は気候だけでなく多民族国家である点も、スポーツ大好きな点も似ている。草の根のスポーツ交流も、カナダらしい試みではある。



昨年末、モスクワでフィットトレック1990の幕開きを告げるマルルーニー首相。